

●シリーズ●わがまちの文化財へ31

県指定重要文化財 木造狛犬

昭和30年9月28日指定



狛犬とは、神社の守り神として社殿前に安置してある「守護獣」(神獣)です。その起源は(原型)はライオン、ジャッカル(狼の仲間)など諸説あります。像として造られる場合の素材には、木造や石造、金銅製といったものがあります。

この狛犬は、もと井原八幡神社の随神門の左右に祀られていたものです。高さ54cmの一木造りで、彫眼。彩色が全体に施された室町時代の秀作として、

広島県重要文化財に指定を受けています。

大字伊尾・井原八幡神社所蔵
大田庄歴史館寄託展示

よく見ると

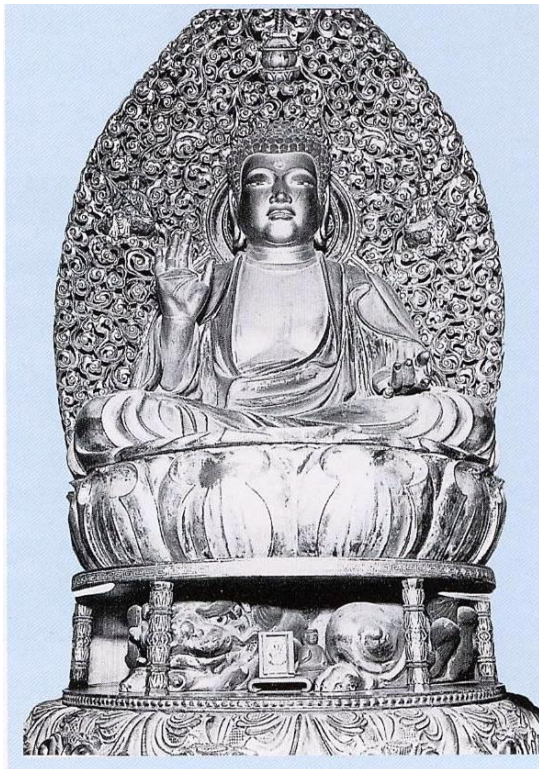
口を開けたものと閉じているものがあります。

向かって右側が阿形像、左側が吽形像。伝承では、神社の門を守護している神獣だけに、「何か悪いことをして隠していても『あ』から『うん』までお見通し」であるとか、「口を開けている方は人が生まれた時、閉じている方が死んだとき」というように、人の一生を表しているとも言われています。

●シリーズ●わがまちの文化財へ32

町指定重要文化財 木造 釈迦如来坐像

昭和55年7月21日指定



この像は、寄木造りで金箔押しのうえの釈迦如来像です。寺伝によれば、貞治四(一三六五)年京都の仏師により造像され、本尊仏に迎えられたといわれています。

大きい目、螺髪らほつや面長の面部、褌衣へんねと衲衣のうえを着ていること、うねりの強い衣文表現えもんで、ずんぐりとした体幹部の造形などから伝承どおりの制作年代と推定されています。

訪問にあたっては信仰の対象のため、事前に康徳寺の了解が必要です。また、拝観のマナーを守りましょう。



よく見ると

仏様の気を表す光背には化仏の菩薩像が彫刻されています。